

図画工作科学習指導案

5年3組 33名 指導者 林 智 美

本授業では、以下の検証を行うものである。

「思考スキル」を活用して、思いをふくらませることは、自分なりに工夫して表現したいという意欲を高める手立てとして有効であったか。

1 題 材 じっと見つめてみると（絵に表す）

2 目 標

普段の生活や身の回りを見つめ、そのときに感じた印象や思いを工夫して絵に表す。

3 題材の評価規準

- 自分の生活や身の回りのことを見つめ、そのときに感じた印象や思いを表すことに取り組もうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 感じた印象や思いが表れるように、形や色、構図などを考えている。 【発想や構想の能力】
- 感じた印象や思いが伝わるように、表し方をいろいろ工夫している。 【創造的な技能】
- 自分や友達の絵を見て、表しなかった場面の印象や思い、よさや美しさを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材について

本題材は、子どもが、普段の生活の中で心に残ったことを、そのときに感じた印象や思いを大切にしながら、表したいことを見付けて絵に表すことをねらいとして設定している。

この時期の子どもたちは、考え方や行動などに個性的な面が育ってくると同時に、他者の立場から物事を見たり考えたりできるようになる。そして、自分の感情を形や色に表すことを通して、自分を見つめる活動などもできるようになる。また、奥行きや前後関係を意識的に表そうとしたり、再現的につくろうとしたりすることに関心をもつ子どもも出てくる。

そこで、本題材では、生活の中で心に残ったこと、印象深かったことなどをじっと見つめ直し、絵に表す活動を行う。そして、そのとき抱いた気持ちや思いが感じられるように、絵に表す場面や画面を、様々な視点から吟味し、工夫を重ねるようにする。また、普段の生活や身の回りを見つめて形や色を捉え、表したもののイメージをもつことができるように、共通事項と関連して指導していくようにする。

こうした活動を通して、伝え合いたいことや構成の美しさなど、発想したことから表し方を構想し、表現に適した方法などを組み合わせて表すようにする。そうすることで、自己を見つめ、他者や社会を意識した表現へと広がりながら、発想や構想、創造的な技能などの能力を育成することにつながる事となる。

(2) 子どもの実態と指導について

これまでに子どもは、「わすれられないあとき」で、自分の感じたことや想像したことから、発想して表すという活動を行っている。「絵に表す」ことについてのアンケートでは、「絵をかくことが好き。」と答えている子どもは18名、苦手と感じている子どもは15名であった。苦手な理由として、「どうかけばよいか分からないから。」「上手にかけないから。」と答えた子どもが多く、絵は、写実的であることがよいという既成概念にとらわれている姿が見られた。また、「自分の思いを絵に表すことができています。」という質問に対して、「いいえ」が20名で、「思い通りにかけない。」「難しい。」と答えた子どもが多く見られた。また、「作品ができたときに満足しているか。」について、12名の子どもは満足していないことが分かった。満足していない理由として、「もっと工夫できそうな気がするから。」「もっとすごい絵をかきたい。」という考えが多かった。このことから、思いを表現するための工夫についてもっと知って、自分の作品に生かしてみたいと感じている子どもが多いことを感じた。

そこで、思いを表すためには、いろいろな表現の仕方があり、それぞれのよさがあることに気付くことができるように言葉掛けを工夫していく。また、子ども自身が注目した興味のある部分や、自分なりに捉えた形や色、ものの重なりから、表したいことを発想し、工夫して表現することができるように指導を工夫するようにする。そして、思いを伝える表現方法を交流し、見方や感じ方を広げることのよさや楽しさを味わいながら活動することを大切にしていく。

5 指導計画（総時数 8 時間）

過程	主 な 学 習 活 動 【評価規準】	時間
思いをもつ	1 題材や題材名ボードと出会い、学習活動を確認して表現への思いをもつ。 2 題材のめあてを捉える。 ふだんの生活や身の回りを見つめ、そのときに感じた気持ちや思いが表れるように、工夫して絵に表そう。 3 いくつかの作品例を比べて、作者がそのとき何を感じ、どんな思いを表したかったのか話し合う。 4 自分の生活や身の回りから、じっと見つめて感じたことや思ったことを考えて、自分の思いを表現するために必要なポイントを「見える図」に表す。 【関：自分の生活や身の回りのことについて、そのときに感じた印象や思いを工夫して表したいという思いをもつことができる。】	1 (本時)
思いをふくらます	5 自分のかきたい場所を決め、伝えたいことを基に、表し方を構想したりして絵に表す。 【想：自分の生活や身の回りのことを見つめ、感じた印象や思いが表れるように、形や色、構図などを考えている。】	3
思いを表現する／自他のよさに気付く	6 表現の途中で、互いの作品のよさを交流したり、困っていることについてアドバイスをもらったりするなどして、そのときの気持ちや思いが表れるように工夫して絵に表し、自分の作品をパワーアップさせる。 【見付けたいム】 【技：感じた印象や思いが伝わるように、表し方をいろいろ工夫している。】	3.5
新たな思いをもつ	7 作品紹介カードやプレゼントカードを書き、互いの工夫やよさを話し合う。 【鑑：自分や友達の絵を見せ合いながら、表したかったことについて話し合っている。】 【ギャラリーウォーク】	0.5

6 本 時（1／8）

(1) 目 標

自分の生活や身の回りのことについて、そのときに感じた印象や思いを絵に表すための工夫について考えることができるようにする。

(2) 評価規準

- 自分の生活や身の回りのことを見つめ、そのときに感じた印象や思いを工夫して表したいという思いをもつことができる。 【造形への関心・意欲・態度】
- 自分の感じた印象や思いを表すために、どのような工夫をすればよいか考えることができる。 【発想や構想の能力】

(3) 指導に当たって

本時では、題材との出会いを大切にして、感じた印象や思いを工夫して絵に表したいという意欲をもつことができるようにする。そこで、自分の思いに合った表現方法を選べるように、発想や構想したことを、「見える図」に表しながら、そのときの気持ちが伝わるような工夫を考えることができるようにする。

「思いをもつ」過程では、作品は、作者の思いで、いろいろな工夫ができることを感じたり、製作への意欲や表現への思いをもてたりできるようにする。

「思いをふくらます」過程では、感じた印象や思いから見方をいろいろ工夫することで、同じものでも、作品の感じが変わることに気付けるような参考作品を掲示する。そして、作者の思いによって工夫が変わることを自分たちで見付け、自分の作品に生かしてみたいという気持ちをもてるように、協働的な学び合いで調べる場を設定する。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、自分が絵に表したいことについてのイメージを広げたり、工夫したいことを考えたりできるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、友達や自分のよさを感じたり、自分の表現に自信をもったりして、製作活動への意欲を高められるようにする。また、新しく加わった考えが分かるように、友達の考えを聞いて、新しく加えたい考えや思いついたことなどは青色で書き入れるようにする。最後に、次時の学習を確認することで、作品製作への新たな思いをもつことができるようにする。

(4) 本時の展開

□ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ	8	1 二枚の作品を比べて気付いたことを出し合い、表現への思いをもつ。 比較する 2 本題材の目標と学習の流れを確認し、本時の活動とめあてを話し合う。 自分の思いを絵に表すためのパワーアップ工夫は何か。	○ じっと見つめているといろいろな工夫やこだわりが隠れていることに気付くように題材との出会いを工夫し、製作への意欲をもつことができるようにする。 ○ 自分の思いを伝えるために工夫があることを知り、試してみたいという思いをもつことができるようにする。 ○ 題材の目標と学習の流れの板書資料を掲示し、見通しがもてるようにする。 ○ 子どもたちの発表を中心に、キーワードを板書し、自分のめあてを考えられるようにする。
思いをふくらます 思いを表現する／自他のよさに気付く	30	3 同じ場所がかかれた参考作品を見て、気付いたことを話し合う。 4 それぞれの作者は、何を見つめて、どのように絵に表したかったのか、作者の思いについて、グループで担当する絵を決めて調べる。 多面的にみる ・ よく見ると、上にいくほど細くなっていて、三角の形をしているよ。 ・ 作者は、階段がずっと続いている感じを表したかったと思うよ。 ・ 向こうに続く感じを表すためには、先を細くするとよいのかな。 5 日頃から心に残ったことをスケッチしたものを振り返り、絵に表したいことやパワーアップ工夫を考える。 関連付ける 6 自分の思いが伝わるよううとパワーアップ工夫を紹介し合い、考えを共有する。	○ 同じものでも、作者の思いや見方によって作品の感じが変わることに気付くことができるような参考作品を掲示する。 ○ よく見ると、思いを表すために、いろいろな工夫があることに気付き、表し方のヒントを得ることができるように、グループでの協働的な学び合いで調べる場を設定する。 ※ 自分の生活や身の回りのことを見つめ、そのときに感じた印象や思いを表す工夫を見付けようとしている。 (ワークシート・活動) ○ 積極的に調べている子どもには、思い表すためにどのような工夫をしているか、思いと工夫をつなげて考えることができるように言葉掛けをする。 ○ 活動が停滞している子には、まずは、色や形の工夫を見付けてみるように言葉掛けをする。 ○ 自分の作品にも生かせるポイントを考えることができるようにする。
新たな思いをもつ	7	7 本時の学習を振り返る。 パワーアップ工夫は、思いに合わせて、見る角度や遠近感の使い方などを工夫するといひよ。 8 友達の考えを聞いて、新しく加えたい考えや思いついたことなどを書き入れ、次時の学習を確認することで、作品製作への新たな思いをもつ。	○ 振り返りの視点カードを使って、本時の活動や気付いたことなどを振り返り、友達や自分のよさを感じられるようにする。 ○ 新しく加わった考えや思いついたことは、青色で書き込むように言葉掛けをして、活動を通して再構築された自分の考えが分かるようにする。